

# 松岡あきみち(26)と さあ、行こか!

【温故創新】温故知新の進化系で造語。豊中市ってなんで豊中っていうかご存知ですか？

昔、摂津国豊島郡というところに五つの村がありました。その五つの村が合併して豊中村ができました。このときはじめて、「豊中」が生まれました。豊中の由縁は、豊中村が「豊島郡の中心部にあつたから」だそうです。単純ですね(笑)

豊中市で生まれた人、豊中市で育つた人、豊中市で働いている人、豊中市に住んでいる人、豊中市に遊びにきた人。ほんの少しでも、豊中にご縁があつた人にとつて忘れられない町にしたい。

老いも若きも夢をもてる町、豊中。  
緑あふれる住みよい町、豊中。  
市民が動いて創る町、豊中。

そして、豊中から日本を動かしていく。豊中から日本を動かす会は、松岡あきみちとともに、まちづくり活動をすすめています。

少しでも多くの方に一緒にいただくため、後援会事務所を公開します。また、松岡あきみちをより多くの人に知っていただくため、イベントも開催予定です。詳細はホームページをご覧ください。事務所へお問い合わせください(連絡先は右上または裏面記載)。

「温故創新」のバックナンバー(Vol.1~3)は、ホームページよりご覧ください。

# 19万人のみなさん、動きましょう。

低くて当たり前化しつつある投票率



**若者の政治離れ**  
関心がないわけじゃない!  
託せる人がいないだけ!!

**組織票で当選する政治家**  
政党や各種団体が集める組織票。  
息子などに引き継がれて世襲に。

**若年候補者の皆無**  
現職の豊中市議の  
平均年齢は 57 歳

**緊張感のない政治家**  
駅前に立つのは選挙の時だけ。当選すれば、次回まで安泰。

**組織のために政治利用**  
一部の人たちに選ばれた議員が、一部の人たちに利益を誘導する...という図式。

この19万人(若者や利害関係のない人々)の多くが選挙に足を運ぶことで、クリーンな(一部に偏らない)政治が実現できます。

人が変わっても、組織に占有された議会では何も変わりません。組織が悪いわけではありませんが、19万人が動かないせいで、高濃度組織票問題が生じています。

若い視点で新しい豊中市政を創造します。

豊中の有権者は約 30 万人。例えば、ある組織が 5 万票をもっていると、組織票濃度は 16.6%。市議会の定数は 36 議席ですから、6 議席を確保することになります。

ところが、実際に動いている有権者は約 11 万人ですから、5 万票の組織票濃度は 45.4%。すると、この組織は議会で 16 議席を確保することになります。

こうして議会では、現実以上に組織の意向が強く反映されるのです。議会を適正にするためにも、私たち一人一人が動かないといけません。

さあ、みなさん。気づいているのに気づかないふりをするわけにもいかないので、そろそろ動きましょうか。

## 松岡あきみち(26才) 豊中市出身

- ・ しんでん幼稚園→南丘小学校→第九中学校→北野高校→同志社大学法学部政治学科。小、中、高校で生徒会長、豊中市中学生シンポジウム実行委員長を務める。
- ・ 池田市長、北摂の国会議員、地方議員のもとで政治の現場を学んだ後、箕面市公共下水道事業運営審議会委員を務める。近隣の市政について学び、条例改正にも携わる。
- ・ JAバンク大阪の職員として地域経済、消費生活について学ぶ。休日は、NPO活動の取り組みや豊中ラグビースクールコーチとして過ごす。18 年末に退職して、政治の道を志す。



# とよなか創政記

## 「地域のつながりと防犯・防災」

## 松岡あきみち

私が子どもだった頃、夕食の準備をしている母親に「あら、醤油がないわ。あきみち、お隣さんから借りてきてちょうだい。」と言われたこと覚えてます。「おばちゃん、醤油かして」と言った近所のやりとりは、今はほとんど見られなくなりました。

今ではコンビニがあるので、買い物には困りませんし、醤油を借りるって恥ずかしいですね。とはいっても、昔は恥じらいがなかったわけではありませぬ。「醤油を借りる」ようなことですから、気兼ねなくご近所に言えるだけのお付き合いがあったのです。

ある校長先生が話をしてくれました。「校区の盆踊りに参加すると、地域のお世話をしている人がたくさん集まっている。ところがPTA会長の姿が見えない。他の人に聞いてみると、『PTA会長が住んでいるマンションは、自治会に所属していないので、盆踊りには参加しません。』と答えて返ってきた。自治会に属さないことがマンションの売り文句となり、地域の役回りを嫌う人たちに人気があるのが現状だ。」

PTA会長はともかく、そのマンションに住む子どもたちは盆踊りに行きたいでしょう。私は寂しい気持ちになりました。たしかに仕事が忙しいので、地域の役回りは億劫かもしれません。しかし、社会にとって、地域のつながりが薄れていくことの危険性に気づかないといけません。

私が子どもだった頃、母親のいないところで買い食いをして帰宅すると、「買い食いしてたんちやうの！」と叱られたことがあります。「八百屋のおばちゃんが見てるねんで」と聞かされ、子どもながらに地域のつながりを感じたことを覚えています。

こうした地域の目が少年の非行を防止し、地域の防犯機能を果たしてきたことは間違いありません。しかし、地域のつながりが希薄になって、「あの子、どこの子？あの人、誰やる？」というのが現状です。

地域のつながりは、防災にとっても重要です。ある講演によると、私たちは地球規模でいう地震の静穏期に、人生の大半を過ごしてきたそうです。しかし、一九九五年から地球は活動期に入ったそうです。

地震はいつか必ず起きます。これから半世紀を生きる私たちは、これを自覚してまちづくりをしなくてはいけません。建物の耐震調査、危機管理体制の構築などハード面はもちろん、地域で助け合う心の醸成、地域のつながりを紡ぐ取組みなどソフト面が大切になります。

十二年前、阪神大震災直後、多くの人が助け合い、日本人の相互扶助の精神は世界を驚かせました。しかし、現在は携帯電話が普及して、家と家のつながりが個人と個



(母校の豊中九中で、中学三年生に講演)

人に変わりました。そして、マンションはセキュリティのためにオートロックとなり、地域と距離を置きました。このままで大丈夫でしょうか。今でも世界に誇れる相互扶助の精神が生きているでしょうか。

犯罪や災害は防ぐだけでなく、減らすことができます。有事にパニックにならないければ、それだけ減災になります。そのためには、地域のつながりが不可欠です。現在、地域のつながりを再生しようと、介護や子育てを通じて、NPOなどが取組みを進めてくださっています。

さあ、みなさん。気づいているのに、気づかないふりするわけにもいかなないので、そろそろ動きましょうか。

みなさんのご意見ご感想をお聞かせください。

松岡あきみち後援会事務所  
06-7178-7785  
office@matsuoka-akimichi.net



### ◇事務所ボランティアスタッフ大募集◇

「温故創新」の配布や、発送作業などをお手伝いいただけませんか？配布はご近所の数件でも数十件でも結構です。無理なく、気持ちよく、可能な範囲で応援をお願いいたします。

### ◇松岡あきみちの熱い思いを聞いていただける方、お声かけください◇

松岡あきみちがお伺いします、ご連絡ください。松岡あきみち後援会事務所:06-7178-7785